

## 愚直に粘ることの重要性

1981年の福井謙一博士以来、これまで7人もの日本人研究者にノーベル化学賞が授与されています。まさに、化学(特に合成化学)は、日本が世界を牽引する領域だといえるでしょう。竜田教授は「日本は、学問としての化学だけでなく、産業としても世界をリードすべきです」と話し、「私の研究室に入ってきた学生諸君には、まず、研究者になる以前に合成化学を通じて『一人前の人間』になってほしいと願ってきました。ほとんどが大学院の修士課程まで進みますが、その後は社会に出て、研究哲学を実学に生かしてほしいと考えたからです」と続けます。

石油やレアメタルの枯渇が危ぶまれる一方で、これらの代替物質の開発はあまり進んでいません。「こうした分野でこそ、日本の力を発揮できるはず。とくに、物質を作り出すまでの知的財産で勝負に出るべきだと思いますね」とも話します。「愚直であること」を、ご自身のポリシーとされてきたという竜田教授。学生に対しても、「化学に対する自分なりの興味をもち、愚直に自然と対峙して研究を続けてほしい」と言い切ります。「実践的ナノ化学」とそれにつづく「実践的化学知」の研究成果が、社会に還元される日が待たれます。(サイエンスライター 西村 尚子)



## 教え子たちからのメッセージ

### 戸嶋一敦 としま かずのぶ

1988年 竜田研究室卒業  
慶應義塾大学理工学部  
応用化学科 教授



竜田邦明先生、ご定年退職おめでとうございます。先生には、慶應大学で、研究室の学生としての6年間に加え、助手としての3年間、いろいろご指導頂きました。先生は、「カリスマ」という言葉が、正にピッタリの先生でした。抜群に面白い授業、研究への熱き情熱、圧倒的な行動力、そして、人間味あふれるユーモアセンスで、私達をいつも魅了されました。

教え子の一人とし、これからも目標とし、先生の教えを、多くの後輩に伝えていきたいと思えます。竜田先生、本当にありがとうございました。

### 佐藤史恵 さとう ふみえ

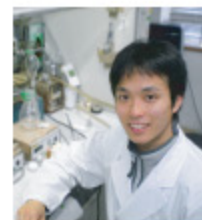
2004年 竜田研究室卒業  
アステラス製薬株式会社 研究本部  
化学研究所 創薬化学第七研究室

3年間の研究室生活では、朝から夜遅くまで実験に没頭し、忙しいながらも充実した日々を送りました。先生は毎日1人1人を回りながら熱心に指導していただき、先生からは有機合成に関してだけでなく、研究者(一社会人)としてあるべき姿を教えてくださいました。また、困難な局面にぶつかっても、逃げずに乗り越えようと努力することの大切さも学ばせていただきました。先生、本当にありがとうございました。

(“後輩”のみなさんへ)研究室に配属後は、自分の研究にとにかく一生懸命取り組み、決して諦めないことが大事だと思います。研究者であってもそうでなくても、社会人として役に立つことが必ずあります。

### 迎田裕貴 むかえだ ゆうき

先進理工学研究科 応用化学専攻  
竜田研究室 博士課程1年



竜田先生には、4年生の頃から、現在に至るまで多くのことを教えていただきました。まず第一に有機合成研究の基礎や研究者としての心構えを御指導いただき、また研究に対して真剣に、愚直に取り組む姿勢を先生の姿から学ぶことができました。さらに、私達の将来を見据え、いち社会人として生きていく上で基盤となる「もの」の考え方についても研究を通して御指導いただいたこと大変感謝しております。

今後、私はそれらのことを後輩たちに100%伝えるべく努力していきたいと思っております。